

## 海外の製油所におけるプラスチック廃棄物のケミカルリサイクルの動向

◇石油を主原料とするプラスチックのリサイクルへの取組みは、持続可能な社会の実現や資源の有効利用を目指す我が国石油業界共通の課題である。

◇ケミカルリサイクル（CR）で先行する海外の動向は、日本の製油所での CR の導入拡大・発展を樹立する際の参考情報となり得ることを踏まえて当該動向を調査した。その結果、海外においても廃プラリサイクルにおける技術面の課題や政策上の対応の必要性が認識されている現況を確認した。

◇CR の事業化で先行する海外の石油企業の動向に日本での取組みに係る示唆を見出せる可能性があると考え、ExxonMobil、Shell、NESTE を中心とする各社の具体的な事例を取り纏めた。

### 1. はじめに

我が国でも、プラスチック廃棄物（以下、廃プラ）のリサイクルではマテリアルリサイクル（MR）、ケミカルリサイクル（CR）、サーマルリサイクル（エネルギーリカバリー、ER）などの技術が開発され実用化が進められている。一般社団法人プラスチック循環利用協会によると、2024年の国内の廃プラ総排出量は911万トンで、810万トンが有効利用（利用率89%）されており、その内訳はMRが180

万トン（対前年比：+9万トン、+5%）、CRが23万トン（同：-4万トン、-14%）、ERが608万

### 1. はじめに

### 2. JPECの検討状況

### 3. 近年の海外の動向

#### 3-1. 業界全体の概況

#### 3-2. 個別石油企業の動向

### 4. まとめ

この記事は会員限定です。登録すると続きをお読みいただけます。

続きは、こちらのJPECホームページより閲覧いただけます。

### <事務局・お問い合わせ先>

一般社団法人カーボンニュートラル燃料技術センター  
企画調査部（サポート担当）

お問い合わせフォーム

### <情報提供サービスの種別と入会方法>

ご興味をお持ちの方は、下記サイトよりお申し込みくださいますようお願いいたします。

JPEC情報購読案内（概要・申込み）サイト

本調査は、一般社団法人カーボンニュートラル燃料技術センター（JPEC）が実施しているものです。無断転載、複製を禁止します。

Copyright © 2026 Japan Petroleum and Carbon Neutral Fuels Energy Center all rights reserved